

SUN

Seisaku Union News

J R 東海ユニオン政策情報誌No.66

2023年1月10日

東海旅客鉄道労働組合政策部発行



JAPAN-RAILWAY-TOKAI-WORKERS-UNION



伴野豊衆議院議員が国土交通委員会で発言！

～ 齋藤国土交通大臣の所信表明に対して質疑～

2022年10月28日に国土交通委員会が開かれ、齋藤鉄夫国土交通大臣の所信表明に対する質疑が行われました。J R 東海ユニオンが推薦する J R 連合国会議員懇談会副会長の伴野豊衆議院議員が「国土交通行政における許認可権」、「地域公共交通」、「リニア中央新幹線」等について質問を行いました。

とりわけ「リニア中央新幹線」については、冒頭で議論が行われた「許認可権」も念頭に置きつつ、権限濫用の防止や水資源問題に関する工学者への敬意の必要性に触れながら、齋藤大臣が掲げる分散型の国づくりへの考えを質問しました。これに対し齋藤大臣からは、「リニア中央新幹線静岡工区については、大井川の水資源問題に関し、科学的、工学的な観点から議論を行うため、国土交通省が有識者会議を設置し、昨年12月、中間報告が取りまとめられました。この中間報告においては、トンネルの工事期間中、（中略）結果として大井川中下流域の河川流量は維持されるとの専門的判断がなされました。また、南アルプスの環境保全問題についても、本年6月、国土交通省が有識者会議を立ち上げ、科学的、客観的な観点に基づいて、専門家による議論が行われております。これらの課題解決に当たっては、私の基本的なスタンスは、①科学的根拠に基づいた議論が行われること、②その上で、地域の御理解と御協力が得られるよう真摯な対応を継続すること、この二点を徹底することだと思っております。リニア中央新幹線の建設工事については、国土交通省として、水資源や環境保全等の課題解決に向けたこうした取り組みを着実に進めることにより、早期整備を促進してまいります」との回答がなされました。



また、齋藤大臣は国交省の今後の取り組みに関して「リニア中央新幹線への輸送需要の転移に伴う東海道新幹線の静岡県内の停車本数の増加など、静岡県そして東海地方の発展に資する交通利便性の向上や地域活性化についても、関係自治体や J R 東海と連携して対応してまいりたいと思っております」と答弁しました。

伴野議員は最後に、財政投融资に民主党（当時）も賛成したことに言及し、国民的理解を得る上では政権交代が有効だったことも強調し、これまでの経緯や鉄道行政150年の節目という観点でも齋藤大臣にさらなる推進を訴え質疑を終えました。